

国際農学ESD若手研究者教

本年度からスタートした「国際農学ESDシンポジウム」には、様々な学生教育プログラムとしての機能を持たせましたが、その中で最も重要なのが「国際農学ESDインターンシップ」です。これは、生命環境科学研究科の授業科目であり、大学院生が「国際農学ESDシンポジウム」の運営に深くかわることにより、通常では得ることが困難な国際経験を大学に居ながらにして積むことを目的としています。今年、5名の大学院生がこの科目を受講し、「国際農学ESDシンポジウム」期間中に招待参加者と親密に接する機会を得ました。参加した大学院生にこのプログラムに参加して学んだことをまとめてもらいました。



インターンとして学んだこと

インターンとして参加者のサポート(食事・宿泊・見学補助)、シンポジウム開催時の運営サポート(事務手続き・座長・副座長・照明・パソコン管理・会場準備)などを行いました。

黒川 瑠美子

決して英語に触れていないわけではなかったのですが、実際に目の前の人とのコミュニケーションとなると、全く勝手が違いました。出身国の異なる8人の参加者が、お互いに英語で会話している様子を見てみると、英語という世界共通の言語があるからこそ、国境や文化を越えて、お互いを理解したり問題を議論したりすることができるのだと改めて実感しました。英語をもっと話せたら、シンポジウムでの議論にも参加し、とても貴重なやり取りができたのではないかと思います。せっかくの機会を最大限に生かすことができず、非常に悔やまれます。今回、インターンシップに参加し、英会話の必要性と有用性を身にしみて感じました。筑波大学には留学生が多いものの、どうしても尻込みしてしまっていて会話をする状況を避けてしまっていたのですが、今後はこちらから積極的に話しかけて、練習を重ねていきたいと思います。

シンポジウム開催期間中、痛感したことは、英語ができないと、手も足も出ないということでした。参加者の方に歓迎の意が伝えられない、施設の案内などのサポートもできない、シンポジウムの内容にもついて行けません。日常でも海外の論文などを英語で読む機会も多く、

国際会議の運営組織の一員として会議への参加することは、私にとって初めての経験であり、とても珍しい機会でした。

陳 雅奴

で、英語の重要性と言葉使いが非常に気になりました。また、インターンシップとして外国の研究者や専門家との話し合い、農業の研究面や教育面について多様な考え方に触れ合い貴重な機会をいただいて、私にとって、とても素晴らしい経験となり勉強になりました。

実際に国際会議を開催するためには、多大な人力・財政が必要だと驚きました。そして、会場の維持や管理について様々な意外な状況への応変や対応がとても大切だと感じました。このような国際会議を通し、かなり自分の経験の積み重ねになりました。英語しか使えない会議

外国の方々との意見交換により、その国との文化交流や相互理解が非常に重要だと認識しました。自分と周囲との間に、交流の橋をかけ、人とのつながりを深め、より良い人間関係を築けるように、あるいは自己成長にも結びつくのではないかと考えています。



教育プログラム



Internship



インターンシップを通して学んだことは、日本以外のことも当事者意識を持つ、「思いやり」の気持ちだと思います。

藤代雅晴

一週間という期間に渡り、Ag-ESD シンポジウムにスタッフとして参加させてもらったことにより、「Ag-ESD とは何か?」ということを選び、考えるきっかけとなったと思います。普段の生活では、考えることがないようなことであり、専門分野以外に目を向ける良い機会でした。自分は、英語を話すことは得意ではないし、海外に行ったこともないので、今回のような機会を与えてもらったことは非常に貴重な体験でした。また、議長の経験やシンポジウムの裏側などを学んだり、経験させて頂くことができ、特筆したい自分の大きな変化としては、「グローバルな目線を持つように心掛けるようになった」ということです。世界的課題に対して、思いやりの気持ちを持って取り組むことが重要であると思いました。このような機会を与えて下さった先生方には本当に感謝しております。どうもありがとうございました。



英語での初めての座長経験をし、とても勉強になりました。はじめの挨拶から最後の拍手まで、きちんとした発表用の勉強ができました。

孟 珊珊

シンポジウムの使用言語が英語であるため、英語の聴力、読解力と会話力を全部鍛えられて、とても勉強になりました。そして、英語が自分の一番難しい課題だと実感しました。やはり、言葉は道具であり、それをうまく使えない限りはことが進みません。今回のシンポジウムを通じて、自分自身、英語を勉強する意欲が増しました。作業としては具体的には、インターンシップの五人で照明、パソコン、写真、マイク渡し、記録などを分担して会議を手伝いました。それ以外も、会計、パスポートなどのコピー、秘書さんのアンケートの渡しと回収、学生さんの会場への案内などもみんなで協力しながらスムーズに行いました。五人とも初心者でしたが、チームワークのおかげでうまく仕事ができたと思います。



シンポジウムの醍醐味の一つに新しい概念、研究との遭遇があると思いますが、そういう意味では「ポスターセッション参加」はよかったと思います。

三木悠吾

私は Ag-ESD において、スタッフとして参加しただけでなくポスターセッションの発表者として発表させていただきました。実際に国際的なシンポジウムで発表した経験は少なく、とても貴重な体験でした。Ag-ESD シンポジウムの開催中は、普段とは生活が一変しました。朝起きて会場に行くとは英語漬けです。普段英語を話す生活をしていないので、なかなか疲れるようです。集中力が低下すると、早速聞き取れなくなってしまいます。もう少し持続的に聞くことが出来れば、楽だったのかもしれない。どちらにせよ、最低限のことは出来ても、シンポジウムで使用できるレベルではなかったようです。TOEIC にしろ TOEFL にしろ、何か語学力をつけるためのトレーニングをしなければならないなあ、と感じました。